

埼玉県立加須げんきプラザ

「人間関係づくりプログラム・野外炊事体験」・中学部2学年 生活単元学習 学習指導案

1. 単元名 「体験的活動を通して、仲間の大切さを知ろう」

【主となる教科】 「生活単元学習」

※校外宿泊学習は教科としては「特別活動」にあたるが、学習指導案として作成する際は、事前事後学習を含めた各学習活動に焦点をあて、「各教科等を合わせた指導」である「生活単元学習」として単元設定を行う。

○学習指導要領 各教科等を合わせた指導について

各教科、道徳科、特別活動、自立活動及び小学部においては外国語活動の一部又は全部を合わせて指導を行うことをいう。児童生徒の学校での生活を基盤とし、学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的であることから、従前より「日常生活の指導」、「遊びの指導」、「生活単元学習」、「作業学習」などの「各教科等を合わせた指導」が行われている。

学校教育法施行規則 第130条第2項

特別支援学校の小学部、中学部又は高等部においては、知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。

○学習指導要領 生活単元学習 内容とのかかわり

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実践的・総合的に学習するものであり、広範囲に各教科等の目標や内容が扱われる。各教科等の目標に沿った活動を通して、自らの基本的な生活の力を高めるとともに、友達と協働して取り組む姿勢を育むことを目指す。

(エ) 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるものであること。

(カ) 単元は、各教科等に係る見方・考え方を生かしたり、働かせたりすることのできる内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるよう計画されていること。

2. 単元の目標・評価規準

体験活動を通じて、生徒が互いに協働しながら「仲間の大切さ」を知ろうとするとともに、これまで各教科等で学んできた知識や技能、見方・考え方を総合的に働かせて、一人一

人の生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、様々な役割を担い、集団全体で取り組むことができる。

育成する資質・能力	目標	評価規準
知識及び技能	・ 仲間の大切さを知るために他者と協働して取り組むことの意義を理解できる。	・ 仲間の大切さを知るために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。
思考力・判断力 ・ 表現力等	・ 集団内で協議して合意形成を図り、よりよい方向性を見出して課題解決を図ることができる。	・ 集団内で協議して合意形成を図り、よりよい方向性を見出して課題解決を図っている。
学びに向かう力 ・ 人間性等	・ 他者の考えや意見を肯定的に捉え、尊重することで、仲間の大切さを知ることができる。	・ 他者の考えや意見を肯定的に捉え、尊重することで、仲間の大切さを知ろうとしている。

3. 単元構想

(1) 集団宿泊活動として学習することのよさ

SNS などの情報伝達技術の発展により、人と人との直接的なふれあいが減少し、学校においてもネット上におけるトラブルによるいじめ問題や、人間関係の希薄化に起因する不登校問題などが大きな課題となっている。そこで、加須げんきプラザでは、いじめ・不登校等の問題を解決するためには、よりよい人間関係を形成することが何より重要ととらえ、令和元年度に「人間関係づくりプログラム」を開発した。その後、様々な教育機関や利用団体に対し、よりよい人間関係を形成するきっかけづくりとして、体験を提供してきた。

その他にも、当プラザでは様々な体験活動を提供しており、その中でも今回行う「野外炊事体験」は、参加者同士の協働が必要不可欠であるとともに、これまで各教科等で学んだ知識や技能を生かし、見方・考え方を働かせることができる体験活動である。SDGs や防災教育などに関連付けて実施することができ、生活体験の中で自分たちが果たすべき役割は何かを考え、実践する機会になると考える。

本単元では、校外宿泊学習の中で上記の体験活動に取り組み、生徒が互いに協働しながら課題解決を図り、「仲間の大切さ」を知れることをねらいとする。そして、本単元を契機として、生徒間に良好な人間関係を築き、それを基盤としたよりよい学級・学年集団を形成することにつなげていく。

(2) 単元計画（学習過程と活動内容等）

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】 ・ 学習活動の把握	・ 宿泊学習の概要やきまりを知る。【社会科】 ・ 宿泊学習の「しおりづくり」を行う。【国語科】	6	学校

・知識・技能の 習得	・加須市についての「調べ学習」を行う。【社会科】 ・宿泊に向けての「入浴学習」を行う。【保健体育科】 ・野外炊事に向けての「調理実習」を行う。【家庭科】【社会科】		
【体験学習(当日)】 ・学習したこと の実践	・加須未来館で「プラネタリウム鑑賞」を行う。【社会科】 ・「人間関係づくりプログラム」を体験する。【自立活動】 ・「野外炊事」を体験する。【家庭科】【社会科】 ・「うどんづくり」を体験する。【家庭科】【社会科】	1 2	施設
【事後学習】 ・実践の振り返り ・知識・技能の 深化	・体験学習の様子を写真等で振り返り、活動を通して学んだことを確認する。【国語】 ・体験学習を通して学んだことを生かして、「調理実習」を行う。【家庭科】	4	学校

(3)「主体的・対話的で深い学び」の視点

1) 主体的な学び

①目指す子供の姿

各体験活動のねらいを理解し、自らの役割を果たすとともに、他者と協働して課題を解決しようとすることができる。

②指導のポイント

生徒が主体的に課題を解決するための時間を十分に与え、トライ&エラーを通じて集団として課題を解決できるよう促す。

2) 対話的な学び

①目指す子供の姿

集団内で積極的に意見交換を行い、合意形成により、課題を解決しようとしている。また、振り返りにおいては、他者の発言を肯定的に捉え、尊重することができる。

②指導のポイント

基本的には生徒の活動を見守ることとするが、必要に応じて適切な声掛けを行う。

3) 深い学び

①目指す子供の姿

活動後において、よりよい人間関係を構築するための自他の発言や行動のよさに気づき、自らさらにより豊かな人間関係を築いていこうとすることができる。

②指導のポイント

課題解決に導いた生徒の発言や行動に、生徒自らが気づくよう示唆しながら支援する。

4. 青少年教育施設での展開【生活単元学習 210分（時数4時間）】

（1）ねらい

- ・「人間関係づくりプログラム」において、様々なアクティビティを通じて、生徒が互いに協働しながら課題解決を図り、仲間の大切さを知ることができる。
- ・「野外炊事体験」において、生徒がこれまで学んできた知識や技能、見方・考え方を総合的に働かせて、自分の役割を果たし、協力して取り組むことができる。

（2）展開例

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
1 課題 (テーマ) の把握	○はじまりの会を生徒主体で行う。 活動の趣旨や内容について、先生方やプ ラザ職員の説明を聞く。	◎活動の趣旨についてわ かりやすく伝える。	10
全体テーマ 「体験活動を通じて、仲間の大切さを知ろう」			
2 人間関 係づくり プログラ ム	○人間関係づくりプログラムを体験する。 であいプログラム ①ダンス発表（10） ふれあいプログラム ②ボール運び列車（15） たかめあいプログラム ③バゲットボール（15） ○人間関係づくりプログラムの振り返りを する。（10）	◎生徒の発達段階・特性 を考慮し、比較的難易 度が低いプログラム を実施する。 ◎プログラム実施に必要 な配慮事項を学校・施 設で事前に共有する。 ◎②③について、生徒の 発達段階・特性を考慮 した班編成を行う。 ◎身体的接触が多い種目 については、男女を分 けるなどの配慮をす る。	50
3 野外炊 事体験	○野外炊事体験に関する説明や、安全に関 する注意点を聞く。 ○野外炊事体験を行う。 これまでに各教科等で学んだことを生か し、自分の役割を果たし、協力して取り 組む。	◎生徒の発達段階・特性 を考慮した役割分担を 行う。 ◎野外炊事の方法につい て適宜アドバイスを与 え、できるだけ生徒た	140

	A かまど担当 ① アンクルなどを準備しかまどを設置する ② 薪を組み着火させる ③ 適宜、薪の量・位置を調整し、適切な炎の状態を保つ B ごはん担当 ① 米、水を量りとり耐熱袋に入れる ② ざるを入れた鍋に水を張り、①の米の入った袋を入れ、火にかける ③ 鍋の様子をよく観察し、米が炊き上がったら火からおろす C カレー担当 ① 具材の下処理（皮をむく、切る）を行う ② 鍋に①の具材と水を入れ火にかける ③ 具材に火が通ったらカレーのルーを入れる ※出来上がったごはん、カレーは食堂へ移動させる ○後片付けをする。	ちが主体的に知恵を出し合い、協働して活動できるよう促す。ただし、安全面の注意については、具体的に説明し、十分に注意喚起する。	
4 まとめ	○おわりの会を生徒主体で行う。 感想発表やおわりのあいさつをする。	◎ねらいが達成できたかどうかを確認させ、お互いの頑張りを称賛し今後につなげる。	10

（３）評価規準

- ・ 仲間の大切さを知るために他者と協働して取り組むことの意義を理解するとともに、野外炊事に必要な技能を身に付けている。（知識及び技能）
- ・ 様々な体験活動における課題を解決するために、他者の意見を尊重しながら協議し、実践することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・ 活動後の振り返りにおいて、他者の考えや意見を肯定的に捉え、尊重することで、仲間の大切さを知ることができる。（学びに向かう力・人間性等）